

村のようす
 (48年11月1日現在)

世帯数 1,418戸
 人口 7,215人
 男 3,516人
 女 3,699人
 面積 46.62ha

広報 たまかわ

編集・発行
 福島県石川郡
 玉川村役場総務課

印刷所
 須賀川市加治町69
 (株) 円谷印刷



村民体育祭

南須釜三連勝

光る岩法寺の準優勝

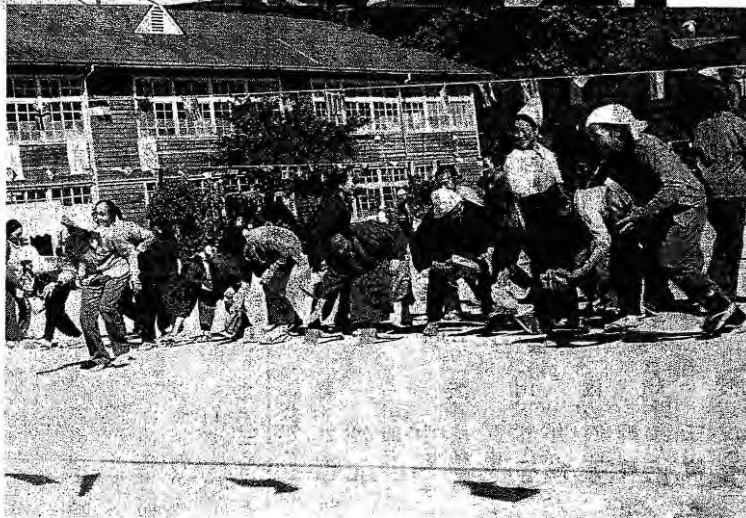
第十三回村民体育祭は、好天に恵まれた十月十日体育の日午前八時三十分から須釜小学校の校庭で行なわれ、総合で南須釜が優勝、岩法寺が準優勝しました。

大会は各部落ごとに区長さんを先頭に選手の入場行進で始められ、小針村長のあいさつがあり、全員のラジオ体操から個人団体の競技に移り、プログラムが進むにつれて観衆の声援にも熱をおび、大会は一層盛り上ってきた。

中でも東西競演の南須釜の出し物は二百名が参加するスクワードダンス。竜崎では花笠に、ゆかた姿で佐渡おけさを披露し、かっさいをあびた。

又青年団員男女の月夜の盆踊り、スポーツ民踊会の北海よしやれなどの踊りも人気を集めた。

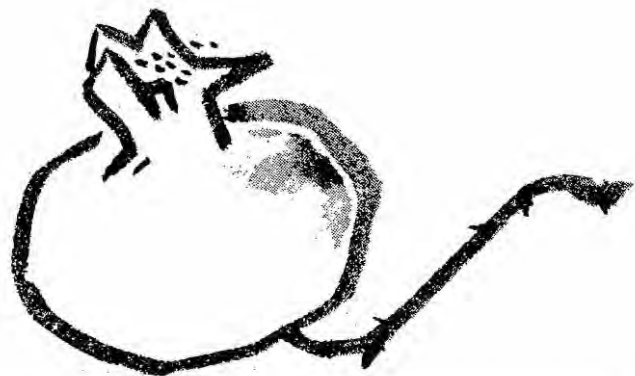
各種部落対抗の競技では南須釜が圧倒的に強く、昨年に続いて優勝、岩法寺は小部落ながら健闘し堂々準優勝、三位は北須釜でした。



㊦ ㊧ 堂々の入場行進
 それガパンレガパンレ

十二月の行事予定表

- 三日 玉川村土地改良区総代選挙
- 上旬 国保運営委員会
- 子牛生産検査
- 一八日 乳幼児健康診断
- (母子健康センター)
- 二〇日 第十三回農業委員会
- 中旬 民生委員協議会 月例監査
- 二五日 固定資産税 第三期
- 国民年金 第三期
- 納期限
- 二七日 妊婦健康診断
- (母子健康センター)
- 下旬 昭和四十八年玉川村議会第四回定例会



菊花と老人作品展にぎわう



玉川村菊花展は公民館主催、川辺と竜崎の菊花愛好会後援で十月二十八、二十九の二日間、泉保育所を会場に見ごと咲いた大輪、懸崖など百四十一点が出品されて行なわれました。

また老人作品展も同日玉川村公民館会場で百七十一一点の出品があつて開催され、両会場とも二日間参観人で大へんにぎわいました。

菊花展の入賞者次のとおり

- 大輪 (太)**
- 須藤永一 (須藤)
 - 深谷マツミ (深谷)
 - 須藤永一 (須藤)
 - 矢部丈雄 (矢部)
 - 草野豊 (草野)
 - 須藤永一 (須藤)
 - 磯目ウメ (磯目)
 - 矢部丈雄 (矢部)
 - 須藤永一 (須藤)
 - 矢部丈雄 (矢部)
 - 矢吹隆子 (矢吹)
 - 小林ミヨ (小林)
 - 小林知子 (小林)

大輪 (細)

- 須藤永一 (須藤)
- 白旗信 (白旗)
- 矢部丈雄 (矢部)
- 白旗幹雄 (白旗)
- 小林ミヨ (小林)
- 須藤利次 (須藤)
- 須藤タツ (須藤)
- 矢部辰弥 (矢部)

懸崖

- 矢部丈雄 (矢部)
- 佐藤茂雄 (佐藤)
- 佐久間安蔵 (佐久間)
- 佐藤茂雄 (佐藤)

盆栽

- 教育長賞
- 金賞 円谷直成
- 銀賞 円谷直成
- 銅賞 佐久間安蔵
- 大竹嘉一 (大竹)
- 佐藤茂雄 (佐藤)
- 円谷直成 (円谷)



川辺でも菊花展

川辺菊花愛好会主催で十一月三日、四日と川辺公民館会場で開催されました。



好評だった老人作品展

石川地方老人作品展示会 二十三名が入賞

石川地方老人作品展示会が 老人クラブ連合会長賞
十月三十日より十一月五日迄
石川町体育館において開催され玉川村からは管内で一番多い百七十一一点が出品され次の二十三名が入賞されました。

賞種別 氏名 部落名

- 郡山社会福祉事務所長賞 溝井直 (小高)
- 石川地方町村会長賞 中野テヨウ (南須釜)
- 洪谷直蔵賞 双里多喜蔵 (川辺)
- 山下春江賞 有賀ノブ (吉)
- 棚辺四郎賞 野崎重司 (川辺)
- 大野雅人賞 三輪貞夫 (小高)
- 渡辺俊政賞 上野鶴雄 (竜崎)
- 村長賞 小林雄一郎 (竜崎)
- 真野目キヨシ (南須釜)
- 真弓ハルノ (藤生)
- 三瓶トクヨ (川辺)
- 矢吹精助 (岩法寺)
- 関根源作 (小高)
- 白旗三郎 (川辺)
- 岩谷光啓 (中)
- 須田ヨシ (北須釜)
- 矢吹玉之助 (山小屋)
- 社会福祉協議会長賞 須釜ミヨシ (吉)

夏交通安全運動事業の第一環として、石川警察署・県交通安全協会石川支部の共催により、事業所の部(七月十五日から九月十四日まで)、分会の部、職域分会の部(八月一日から九月三十日まで)の三部門の夏の交通事故防止コンクールが行われましたが、分会の部で十八ある分会の中で泉郷分会が第一位になりました。

また須釜分会は第五位となり、玉川村における両分会が立派な成績をおさめられたことは会員ひとりひとりが交通事故防止に努力された結果であり、今後もこの心構えを持続され、事故防止にご協力をお願い致します。

泉郷分会第一位

夏の交通事故防止コンクール

福島県 農業機械化研修

大型農業機械の整備及び運転技術の向上を図るために、県におかれましては毎年農業機械化研修を矢吹原経営伝習農場内研修館に於いて実施しております。

昭和四十八年度の今後の研修日程は次の通りとなっておりますから多数受講希望されるようお知らせ致します。

一 農業機械化研修実施計画

期 間	日数	対象者	研修種別	研修内容
昭和84年 11月19日～12月7日	20日	一般	初級研修	トラクター免許取得及び作業機取得
昭和48年 12月10日～12月21日	13日	〃	中級研修	けん引免許取得及び作業機取得
昭和49年 1月16日～1月26日	11日	〃	整備研修	トラクター整備
昭和49年 2月18日～3月9日	23日	〃	初級研修	トラクター免許取得及び作業機取得

- 二 受講経費
- 1 参考書等約一、〇〇〇円
 - 2 宿泊料 (三食一日当) 五〇〇円
- 本村より通勤可能

- 三、携行品
作業衣、ゴム長、印鑑、筆記用具、日用品、免許取得の場合は現有免許証
- 四 宿泊所
矢吹原経営伝習農場内研修館

林精器の誘致決まる

人口の流出防止と出稼ぎ抑制対策として村では振興計画に基づき積極的に工場誘致を行なっていますが、この程林精器製造株式会社誘致が決定し、竜崎原作田内に五万六千平方メートルの用地取得も決まりました。

林精器製造株式会社は創立が大正十年と古く、資本金五千万円、年間工業出荷額四十五億円と県内でも有数の企業です。

主要製造品名は各種時計側で公害もなく理想的な企業といえます。

竜崎原作田内に建設される工場は建物面積一万平方メートルでその他厚生施設として屋内体育館、グラウンド、テニスコートを計画しています。

操業予定は昭和五十年九月を目途に現在測量設計を進めており操業開始時における従

- 五 申込先
役場産業課 (役場二階)
- 六 申込期限
各回の実施初日より十日前まで
- 七 その他
この受講に関して不明な点は役場産業課に問い合せて下さい。

混和軽油は

車をいためます

最近混和軽油という言葉聞きませんが

答 軽油は、通常一リットル十五円の税金がかかっていますが、税金のかかっていない他の油を混ぜて自動車の燃料として使用することです。

この混和軽油を使用することにより、自動車の心臓部であるエンジンをはじめ、その上に法律で厳罰をうけ、混ぜた油の量に相当する軽油引取税及び各種加算金が追徴されます。

最初は安いと思われる混

秋の全国火災予防運動始まる

和軽油も、結果的には安いどころか非常に高価な油になりますので絶対に使用しないで下さい。

不要にしまししょう。売らない、買わない、使わない、車をいためる混和

軽油

(郡山県税事務所)

火災の多発期を迎えるにあたり、国民ひとりひとりの防火意識の高揚をはかり、火災の発生防止と人命損傷事故の絶滅を期することを目的に左記により全国火災予防運動が実施されます。

- 二 重点実施事項
- (一) 寝たきり老人の安全確保
 - (二) 家庭における安全点検
 - (三) 老人、幼児及び病人等の就寝場所の安全点検

- ア タバコの投げ捨てと寝タバコの防止 (タバコに起因する火災は、出火原因の首位を占めているので特に注意が必要)
- イ タバコの投げ捨てと寝タバコの防止 (タバコに起因する火災は、出火原因の首位を占めているので特に注意が必要)
- ウ 避難訓練の徹底
- エ 避難路の確保
- オ 避難誘導の徹底
- カ 避難訓練の実施

村民ひとりひとり火の元に注意され、村内からは一件の火災も出さないように注意いたしましょう。

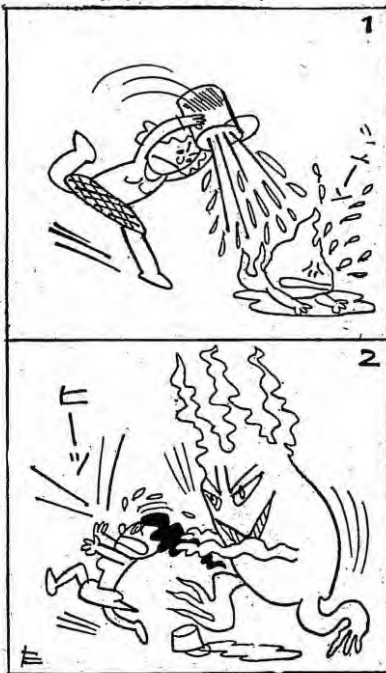
一 実施期間
十一月二十六日から十二月二日まで

ウ 暖房器具の整備点検 (暖房器具の使用時期にはいり、ストーブ及びコタツ等の暖房器具を使用することが多く

玉川村
玉川村消防団
玉川村婦人消防隊

あなたにもはじめは消せる
小さな火

(火災シーズン来る)



血のかよった政治を 知事を迎えて県政懇談会盛会



政ができるものと考えられま
す。今日は皆様の話を聞きに
きたのでありますから、ふだ
ん皆様と考えておられること
を遠慮なくお聞かせ願いたい
と思っております。

産業 関係

- ◇… 去る十月二十四日、玉川第一小学校屋体において
- ◇… 県政懇談会がひらかれ、県より木村知事を始め関係
- ◇… 部課長、出先の長一五名と大野県議、それに村民約
- ◇… 三百五十名が出席して、産業、土木、生活環境、福
- ◇… 祉教育問題等について活発な質問が行なわれました
- ◇… 懇談会は小針村長のあいさつで始まり、続いて木村
- ◇… 知事は次のようにあいさつした。……

皆様の御支援を得まして県
政を担当して十年になります
が、この間福島県を住みよい
県にするために微力ながら努
力してまいりました。福島県
は関東圏に統する経済県であ
るといわれるようになってき
ました。しかし良くはなって
きませんが全国の水準に及ば
ないということは残念です。
これから皆様方に福島県に生
まれてよかった、住んで良か
ったといわれる県にしてい

開拓パイロット事業が十一
月より一部着工されますが、
いざ事業に当りますとすとい
ろな問題が生じてきます。
といひますのは指導機関がま
ちまちであることです。これ
ら指導機関が統一されること
を私共関係者は望むもので
がこの点についてのお考えを
お願いします。もう一つはパ
イロット事業が完了しますと
県で打出している首都圏農業
として経営形態が確立される
こととなります。これら経営
形態は園芸を主とすることに
なりますが、これに移行する
に当って問題になりますのは
栽培技術の面でいゝんな障害
がでてくるものと思われま

のでこの地方に経営指導農場
が必要になってきますので、
この点よろしく願います。
【知事答弁】
現在の零細経営では専業農
家として成り立っていくのは
無理な状態にあり、現在の経
営耕地面積は非常に狭く平均
一、二ヘクタールとなってい
ます、このため一方で耕地を
増やすため阿武隈開発事業、

開拓事業を実施して耕地面積
を増やし、一方では圃場整備
を行なって採算のとれる農業
経営の指導を行なっていきま
す。しかし全部が全部専業農
家にはできませんので兼業農
家には工場誘致して安定収入
が得られるようにするのが基
本的な考え方です。御指摘の
ように農用地開発は地域の皆
様方と密接なものでなければ
ならないと考え、昭和四十七
年度より郡山農地事務所を中
心として広域的な母畑開発の
指導班をつくって活動してお
り、また昭和四十八年度より
石川改良普及所を広域的な普
及所としてどのようにしたら
皆さんの意見をとりまとめる
ことができるか国営事務所と
密接な関連をとりながら農地
造成を行っている状態です。
今後もしこれらと緊密な連携の
もとに皆さんの考えを反映し
ていかなければならないと思
います。もう一つの首都圏の
農業県として果すべき役割の
調査研究機関としては園芸試
験場がやっておりますが、野
菜も年々多様化しています。
これに対応するために研究
を進めこの地方の将来の作目
を選定したいと考えており、
試験場の分場が必要となつて
きましたらこれに対応して行
きたいと考えております。

【知事答弁】

農振法の問題ができましたが
人間として生きていくために
は食料としての農作物が必要
であり、これを生産する農地
が潰れていって食料の安
定供給ができなくなつて重大
なことになります。そういう
観点に立って農振法を制定し
た訳です、指定された地域に
は農業投資を行なう場合いろ
いろな国の補助がありますが、
指定を受けた土地全部が農用
地としての効果があるかとい
うとそうばかりも言え切れな
いと思ひますので農用地とし
て不適用と思われれるものにつ
いては解除する方向にもつて
いきたい。

教育 関係

学力の地域格差と施設及び
産業高校設置について質問し
ます。
学力の問題であります都市部
には若い先生が農村部には
老いた先生が配置されている
ような状態にありますので大

【知事答弁】

市に人事交流を行なつて農村
部に若い優秀な先生の配置を
行なつて学力の地域格差を解
消するよう図つていただきました
い。
施設の問題であります、今
や一校一プールという話がで
ており強く要望する処であり
ます。都市部はほとんど完備
しているようですが、農村部
にはあまり設置されていませ
ん。そのため同じ県民として
格差を感じます。施設の設置
については大部分が国の予算
で県の予算が少なく財政の乏
しい村ではなかなかできない
状態にありますのでこの点に
ついて県はどのように考えて
いるのか。
産業高校の設置についてです
が石川郡内には普通高校はあ
るが産業高校がありません。
地域産業の発展には産業高校
が必要と考えられますので是
非産業高校を設置していただ
きたいのですが知事はどんな
考えでおられますか。

教育の問題ができましたが教
育には格差があつてはならな
いと思つております。
教員の人事交流は毎年行なつ
ておりなるべく都市と山間の
格差はなくしようとしており
ます。問題は若い教師、若い
た教師の問題より教師を大事
にすることです。やはり地域
の方々が先生を大切にしよう
とする考え方が地域の教育の
向上になると思ひますので、

先生のたりない点は住民の方
が助け合って、りっぱな子供
を育てあげるよう協力して下
さい。私からもお願いしま
す。施設についてですがブ
ルはだんだんできてきます。
これは文部省の予算でできま
すので文部省に補助を多く出
すよう働きかけていきたいと
思っております。

産業高校の設置の件でありま
すが、ないのは石川郡ばかり
ではありません。須賀川、田
村方にもありません、そう
いう状態ですで作ることは
今約束できません。最近の傾
向は家業高校に入る人は少な
くなってきています、普通高
校に入る人が多くなってきて
います。実業高校はそういう
状態で困っているのが実態で
す。ですから全県下の状態を
見て必要な場所、場合につ
くようにしていきたいと考
えております。

社会教育

青少年育成の場から研修所
を県南地方に設置してもら
いたいといえますのは当地方
は一つもありませんので千五
沢ダム周辺に県民の森を兼ね
た総合研修所を建設してい
たいです。

もう一つは公民館建設に関し
てであります。公民館は青年
婦人の活動、学習の場とな
っており、補助金が少ないため
財政の乏しい町村では容易に
建設できない状態ですので公
民館建設の補助を増額をお願

いします。

【知事答弁】

青少年育成のための研修所
の建設ですが活動の場として
の研修場は次の世代を荷な
う青少年を育成するのに一番
大切なことです。青少年健全
育成にあらゆる努力をして参
っており現在県内に三十ほどあ
ります。県としてもこういう
施設をもっとふ
やしていく考
えですし、国の方
にも働きかけて
おります。今要
望がありました
千五沢ダム周
辺は環境も良
いので適地の
一つとして検
討していきたい
と存じます。

公民館は社会教
育のため非常
に大切なこと
です。公民館
は毎年十館位
建設されてお
ります。現在
国庫補助一千
五十万円、県
はこれに設備
費の一部とし
て五十万円出
してあります
が、町村の財
政が乏しいか
らといって多
くは出せませ
んので市町村
振興基金とい
うのを利用し
ていただきた
い。

成人病検査の無料化と老人
憩の家の建設について質問し



成人病検査は毎年実施されて
います。成人病検査は病気の
早期発見に非常に大切なこ
とです。是非この無料化と
制度化された検査をお願い
します。

老人憩の家の建設について
です。老人憩の家は毎年実施
されています。成人病検査は
病気の早期発見に非常に大切
なことです。是非この無料化
と制度化された検査をお願い
します。

成人病検査の無料化と老人
憩の家の建設について質問し

じくじゅん環器系統の無料検
診ができるようになります。
その他についても暫時公費負
担でできるよう考えておりま
す。老人福祉センターにつ
いてですが老人の方々が一ヶ
所に集まることは容易でない
ので各村に老人憩の家を作
って、お互いが集まって話を
したり勉強したりする場を作
るために県はこれに対し助成
をしております。

生活環境関係

交通量の増加による一番の
被害者は通学児童ですが、こ
れら児童生徒が安心して通学
できるように、交通安全施設
の整備をお願いしたいので
知事はどのように考えておら
れますか。

【知事答弁】

交通安全施設の問題がま
したが、お話しのように交通
事故をなくそうという考えは
県民全部の願いです、県にお
いては皆さんの協力を得て努
力してはいますがなかなか良
くなっていないのが実情です。
県としても交通安全施設の
整備のため、四十八年度に九
億二千円を投じてこの整備に
努力しております。来年もこ
れ以上投じて整備を進めて
いく考えです、また今後とも
できるだけ力を入れていき
たいと思っております。

成人病による死亡者は年々
ふえているのが現状です。こ
ういふ点から成人病に対する
正しい認識と早期診断、早期
治療が大事と考えます。四
十九年度から結核患者と同

村の東部と西部を結ぶ重要路
線です。全長十二キロの内、
改良舗装されているのが四、
四キロメートルしかありませ
ん。私共としては全線が一
日も早く整備されますこと
を望んでいるのですがこれの
見通しについてお訪ねしま
す。

土木関係について

交通量の増加による一番の
被害者は通学児童ですが、こ
れら児童生徒が安心して通学
できるように、交通安全施設
の整備をお願いしたいので
知事はどのように考えておら
れますか。

【知事答弁】

交通安全施設の問題がま
したが、お話しのように交通
事故をなくそうという考えは
県民全部の願いです、県にお
いては皆さんの協力を得て努
力してはいますがなかなか良
くなっていないのが実情です。
県としても交通安全施設の
整備のため、四十八年度に九
億二千円を投じてこの整備に
努力しております。来年もこ
れ以上投じて整備を進めて
いく考えです、また今後とも
できるだけ力を入れていき
たいと思っております。

成人病による死亡者は年々
ふえているのが現状です。こ
ういふ点から成人病に対する
正しい認識と早期診断、早期
治療が大事と考えます。四
十九年度から結核患者と同

せん、これら町村道の整備に
ついての国、県の助成等につ
いてお聞かせ願います。

【知事答弁】

私が知事になりました十年
前、福島県の開発、発展はま
ず道路の整備が必要であると
いいましたが、幸い道路の整
備は進んでまいりました。
お訪ねの千五沢、矢吹線は早
く整備をやろうと思ってお
りますし、地元の負担がない公
共事業であります。今年度は
特改一種で八百万円、第四種
改良で一千五百万円、県単で
五十万円を実施しております。
来年度もこれ以上やりた
いと考えております。
玉川田村線については少し遅
れます。今年度は県単で六百
万円程ですが、暫時整備しま
す。それから須賀川市との境
界百五十メートル分ですがそ
れについてはすぐやらせま
す。また溜池の箇所ですが調
査しまして危険であるのなら
ガードレールをつけるなり安
全施設の設置をいたします。

交通安全施設の問題がま
したが、お話しのように交通
事故をなくそうという考えは
県民全部の願いです、県にお
いては皆さんの協力を得て努
力してはいますがなかなか良
くなっていないのが実情です。
県としても交通安全施設の
整備のため、四十八年度に九
億二千円を投じてこの整備に
努力しております。来年もこ
れ以上投じて整備を進めて
いく考えです、また今後とも
できるだけ力を入れていき
たいと思っております。

成人病による死亡者は年々
ふえているのが現状です。こ
ういふ点から成人病に対する
正しい認識と早期診断、早期
治療が大事と考えます。四
十九年度から結核患者と同

用地取得関係

道路が毎年整備されていくことは大変良いことでありますが、これら工事に際しましての用地取得についてですが、私共地権者の知らない間に工事を発注してその後承諾を得るといった状態がありますのでその前に地権者の承諾を得てもらいたいと思っておりますが、知事さんはどのように考えておられますか。またホコリ止めについてですが、砂利道はホコリがひどいので是非定期的に行なうようお願いいたします。

【知事答弁】

今のお話では地権者の承諾を得ないで、工事発注を業者が工事着手していることですが、これが事実とすれば私があやまります。何かの手違いかと思っておりますが今後このようなことがないようにいたしますので、道路の整備については御協力願います。

× ×
以上が県政懇談会における主な質疑の内容であります。初め二時間という予定でありましたが、予定四時間を二十分も超過して、午後四時、盛会裡に終了致しました。

狩猟に注意



十一月一日より狩猟解禁になりましたが、毎年この狩猟による事故が発生しております。狩猟をされる方は人家の近くなどの禁止されておる場所においては絶対猟はしないこと、猟をする際は人影に注意し事故をおこさないように。また、狩猟されない者にあつては、一人での山歩きなどに十分気を付けて、事故に合わないよう注意いたしまして。

昭和49年度

福島県産業開発

青年隊員

募集について

近年建設事業は、大型化し、高度の技術を要求されております。このため若い優秀な建設技術に寄せる期待は極めて大きいものがあります。昭和四十九年度も之が隊員を募集して居りますので希望者は応募して下さい。

募集期間

昭和四十八年十一月三十日まで

○募資格

- 1 現在県内に居住する者及び本県出身で入隊時十八才以上の未婚の男子
- 2 高校卒業者又は同程度の

地方税完納運動

期間

十一月から十二月まで
十一月一日から十二月末日まで
地方税完納運動が実施さ

よく納めよく使われて生きる税

- 1 学方を有するもの
- 2 3 心身強健にして、労働に耐え共同生活の出来る者
- 3 4 犯罪歴を有しない者
- 4 希望があります方は役場建設課に問合せ下さい。

建設工事発注

本年度土木工事計画の内五地区の工事を十月三十一日入札を行ない左記の通り業者が決定されます。税金はみんな定められた日までに進んで納めましょう。玉川村 郡山県税事務所 地区税協石川方部会

施行箇所	工事名	請負金額	請負者
小高字平ヶ谷地 北須釜	林道改設	八、八六、〇〇〇円	株式会社湯沢組
南須釜字堂ノ内	道路舗装	八、三〇〇、〇〇〇	株式会社渡辺組
岩法寺字宮ノ前	〃	四、四〇〇、〇〇〇	有限会社尾形建設
小高字中村前	側溝整備	六〇〇、〇〇〇	岩谷建設
南須釜字中奥平	〃	七五〇、〇〇〇	熊田建設

申告所得税
第二期分の
納税は



十一月三十日まで

期限内完納にご協力ください。

◆振替納税を利用されている納税者のみなさんへ
納付書は税務署から指しよ
納税者のみなさんへ
預金の残高を再確認のう

道路の横断は
必ず安全を
確めて渡りましょう



え、振替不能にならぬようご心配ください。
なお、直接納付されますと二重納付となりますので、ご注意ください。
◆振替納税を利用されていない納税者のみなさんへ
十一月三十日までに、もよりの銀行、郵便局へ納付書にはっきり記入して納付してください。
なお、この機会にぜひ便利な振替納税のご利用をおすすめいたします。
申請に必要な用紙は、税務署に備付けてありますのでお気軽にお申し出ください。
(須賀川税務署)

家庭バレー小高が優勝



農村婦人の腰のぼしと親ほくをはかる玉川村家庭バレーボール大会は、今年で九回目をむかえ、十一月三日玉川第一小学校々庭に村内全部落の十一チームが参加して熱戦をくりひろげ、小部落ながら四辻、山小屋チームの健闘が光ったが、決勝戦では小高と南須釜の強豪同士の対戦となり小差で小高チームが優勝。南須釜準優勝、三位は川辺と山小屋チームでした。

成績は次のとおりです。

一回戦	南須釜 2 — 0 岩法寺	北須釜 2 — 0 山小屋	川 辺 2 — 0 蒜 生
準決勝	小 高 2 — 1 山小屋	南須釜 2 — 1 川 辺	
決勝	小 高 2 — 1 南須釜		
敗者復活戦	山小屋 2 — 1 蒜 生	竜 崎 2 — 0 岩法寺	四 辻 2 — 1 吉
二回戦	小 高 2 — 0 中	南須釜 2 — 1 北須釜	川 辺 2 — 0 四 辻
		山小屋 2 — 0 竜 崎	

任期満了に伴なう人事

九月定例村議会において役員仁井田保治(再任)さん、期満了に伴なう教育委員、監査委員、固定資産評価委員の(五八)さんが選任され、新任が行なわれ、教育委員石森藤義(六九)さん、監査委

児童・生徒作品 (その2)

須釜小学校四辻分校

えんそく

二年 関根 幸子

十六日は、わたしは動物のしいえんそくでした。とちゅうけしきをながめながら行きました。わたしは木の形や、はの形をよく見ました。はっぱの色は、みんなちがう色できれいでした。

やっと、おっそらがまの学校につきましました。わたしたちの学校とくらべて、おっそらがまの学校は、大きいといいかんはあるし、学校がともきれいでした。

あつちの人が「なかよくあそんでください。」と、いったからいっぱいあそびました。ぶらんこにのったり、ジャングルジムの上ののったりすべりだいののったり、ぎつたんぼっこにのったり、なんかいもくりかえして、みんなでおもしろくあそびました。

もうまかった。

えんそくは、たのしいな思とった。

ぼくと

四年 塩田 清之



先生が来たから、わたしときょうこさんが「はらへった。」と、いきました。「では、おべんとうにしましょう。」と先生がいったので、みんな「わあ。」とよろこびました。

うらの草はらへ行って、ナイロンをすいてすわりました。おにぎりを食べたり、チコレットのたばこをすったり、キャラメルもなめました。みんなで食べたのでとてもかわいいなと

ぼくは子牛、母は親牛を引いて運動に行った。道ばたの草を食べべノロノロ歩くので運動になるのかと思った。自分の家を知っているのか帰りはかけ足、向こうから下の家の人が牛の運動にきた。子牛は立ち止まってびくともしない、「うらん。」「うらん。」と引く、少し歩いてまな止まる、たずなで「ピシ」とたたく、子牛ははねあがったのでびっくりした。こわかったけどたずなをにぎりしめた。すると子牛は顔をよせてきたのでとてもかわいいなと



花 六年 大野木代子

思った。

自動車がヘッドライトをてらしてきた、たずなを短かく持って止めた。まぶしいのはねまわってあばれはじめた、とっても強い力でぼくを引きずったが、首をなげてやっているうちにおとなしくなったのでかけ足で家に帰った。

さっそく草をたくさんくれた。息もつかないで食べている子牛を見て、早く大きくなればよいと思つた。ブラシを持ってきて、おかあさんといっしょに子牛のからだを「ゴシゴシゴシ」とこすってやった。子牛はうれしそうちに「モウーモウー」と鳴いた。

「おかあさん、毎日子牛の運動をするよ。」

「うん、よかったね子牛があんなによろこんでいるよ。かわいがってあげなさいとてもうれしかった。

毎日子牛と遊んでやることにした。



「はがき」で消火器をあてよう

あなたは本年の防火標語を知っていますか

福島県と福島県消防協会が共催で本年の全国火災予防運動の統一標語を広く県民の皆様を知っていただくため、懸賞をおこないます。

いま、つぎの要領で募集していますからふるって応募してください。

応募要領

一 応募方法

官製はがきに、昭和四十八年度全国火災予防運動統一標語と郵便番号、住所、氏

二 注意

(一) この懸賞は新しい標語を作ったもので

三 注意

(一) この懸賞は新しい標語を作ったもので

名、年令、職業を明記して下記あてにお送り下さい。

二 あて先

〒九六〇 福島市中町

五二二 福島県消防協会 懸賞係

三 しめきり

昭和四十八年十二月五日

(当日消印有効)

四 賞品

正答者六十名消火器(三千八百円相当)

正答者多数の場合、抽せんて当選者を決定します。

五 発表

昭和四十八年十二月十五日

付 福島消防新聞

昭和四十八年十二月十五日

から同年十二月二十四日までの間、県内の各消防本部、消防署、消防分署および消防出張所等に当選者名簿を掲示します。

南伊豆 その他 溝井 一郎

南伊豆の高処を走るバスに見る磯釣り多
き岩礁の上
さや豆の花盛りなる伊豆の国冷き雨はひ
ねもすやまず
土肥よりの道幾廻して登りたる頂上の山
きりにふさがる
剃刀の研及の如く光りたる夜の稲妻に梅
雨遠ざかる
うす月夜に蛙の声のみちみりて今宵白雲
の流れ動かず

神無月

拙 郎

まつり笛夕日に映えし楳紅葉
阿武隈の濁りてはやし野菊咲き
山晴れて通草の籠の松わらべ
ひとりあて昼月淡し楳紅葉
雑草の花の褪せをり昼の虫
樹の虚の栗鼠の潜みて紅葉散り
鶉鳴くにさやかなる日や神の留守
翅よわき羽蟻の日さす方へ飛ぶ

はなく、すでに新聞や週刊誌等に発表された昭和四十八年全国火災予防運動の統一標語を答えるも

消防関係者は、応募を
ご遠慮ください。

銀盃受彰に

かがやく



元消防分団長

消防団員として多年地域住民の治安維持と福祉向上に精励された。元藤生分団長曲山文雄氏外十一名の方にこのたび消防庁長官より銀盃が贈られ、十一月三日玉一小校庭で開かれた秋季訓練式の際に伝達された。

受彰者名

元藤生分団長 曲山文雄
元吉分団員 須釜信好
元中分団長 小針善雄

春植用苗木の注文について

昭和四十九年春植用苗木の注文は十二月内に取りまとめ知事注文を受け付け中であり、十二月末に報告することになっており、から組合員各位よりの申込み、ますので御協力願います。
(石川地方森林組合)



お誕生おめでとう ございます

(十月分の出生届書から)

部 落	出生児氏名	世帯主名	続 柄
川 辺	須 藤 孝 一	利 治	孫
中 川	矢 部 ゆ かり	莊 一	孫
中 川	永 林 しのぶ	久 徳	孫
中 川	大 竹 充 彦	計 佐 雄	孫
中 川	仁 井 田 充 恵	喜 次	孫
中 川	小 林 進 一	喜 次	孫
中 川	渡 辺 裕 一	勝 久	孫
中 川	大 越 裕 和	茂 二	孫
中 川	小 原 幸 枝	春 二	孫
中 川	大 谷 幸 枝	勝 久	孫
中 川	熊 谷 孝 一	直 勝	孫
中 川	大 野 孝 一	吉 孝	孫
中 川	大 口 裕 美	喜 之	孫
中 川	関 根 正 樹	之 孫	孫

ご逝去お悔み申し上げます

(十月分の死亡届書から)

部 落	死亡者氏名	年令	世帯主名	続 柄
藤 生	曲 山 嘉 直	(70)	主	嘉昭の父
藤 生	橋 本 甲 子 雄	(79)	主	鉄雄の父
藤 生	大 河 原 元 作	(77)	主	トワの夫
藤 生	根 本 猛	(75)	主	武勇の父
藤 生	草 野 惣 之 助	(88)	主	昭吉の夫
藤 生	鈴 木 政 勝	(56)	主	キノの夫